

主の祈りを唱えましょう

主任司祭 吉池 好高

さまざまな会合の折に、始めの祈りを求められます。その場の雰囲気や趣旨に沿った、参加者の皆さんの心が一つになるような祈りをささげることが出来るといいのですが、ついつい、主の祈りに頼ってしまいます。自分のことばで祈ることが出来ない、霊性の貧困さを痛感していますが、面と向かってそのことを指摘された経験はありません。そのような折に、信者の皆さんもそれ以上のことを司祭に期待してはいないということなのではないでしょうか。いかにもカトリック的だとも言えそうです。

このような反省をしつつも、あえて開き直って言うのであれば、主の祈りはもともとそのような祈りなのです。自分たちが集って祈るとき、どのように祈ったらよいかと教えを乞うた弟子たちに、イエスが教えてくださったのが主の祈りだからです。そのように考えるなら、私たちの集会で唱えるのに最もふさわしい祈りは、主の祈りであると言えるのです。

主の祈りはイエスが教えてくださった祈りです。主の祈りを唱える私たちの中に、一つ一つの祈りのことばを通して、それを教えてくださったイエスがいてくださるのです。一言、一言、先唱されるイエスの後に続くようにして、私たちも主の祈りを唱えさせていただきます。

「天におられるわたしたちの父よ」。このように祈られるイエスの後について、主の祈りを唱える私たちは、イエスと結ばれて、父なる神の子らとされた喜びを分かち合うのです。

「み名が聖とされますように。み国が来ますように。みこころが天に行われるとおりに、地におこなわれますように」。十字架の死に極まるご生涯の中心を貫くイエスの祈りです。イエスのいのちの鼓動が、この祈りを唱える私たちの心にも伝わってきます。

「私たちの日毎の糧を今日もお与えください。私たちの罪をおゆるしてください。私たちも人をゆるします。私たちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください」。今や神の子らとされた者たちの、無邪気な、絶対的な信頼の祈りです。